

テーマパーク 「ジャングリア」

古川 真人

5月に妻と沖縄へ行きました。発端は「ジャングリア」のニュース。テーマパークねえ～、昔行ったわねえ～、の妻の独り言が耳に入り久し振りに行ってみるかぁ～、若者気分で楽しむのも良いかも…と決まりました。

「ジャングリア」は昨年7月25日にオープンし開業から半年で65万人を記録しましたが、運営側の年間150万人には…？。入場者が予定より少ないと言っても半年で65万人、混雑覚悟の出発でした。

成田8:25発、那覇10:20着。昼食後レンタカーで海洋博公園内の「①美ら海水族館」へ。PAで休憩し着いたのが14時頃。平日だと言うのに多くの人で賑わっていました。この水族館の呼び物は何と言っても巨大水槽。その大きさは幅35m・奥行27m・深さ10m・容量7500 m³の世界でも最大級の水槽で、まるで映画館のスクリーンを観ているかのようでした。

その中には体長約9m・重さ6tのジンベイザメ（ジンタ君）が悠々と泳いでいる様子が目前で見られるのです。その様たるや驚愕の一言。他に大きな魚もいますがジンタ君があまりに大きすぎて他の魚が目立たなく、正に「水槽の主」と言ったところでした。

なお観光客の多くは外国人で、あちこちから聞き慣れない言語が飛び交っていました。沖縄と言えは「首里城」と思っていました。「美ら海水族館」の知名度の高さをあらためて知りました。



【巨大水槽のジンベイザメ「ジンタ君」】

その後「②古宇利大橋」を通り古宇利島へ。この橋は2005年2月に開通した今帰



【古宇利大橋、奥が古宇利島】

仁村の古宇利島と名護市の屋我地島を結ぶ全長1,960mのコンクリート橋で、県内の通行無料の橋としては2番目に長い橋です。

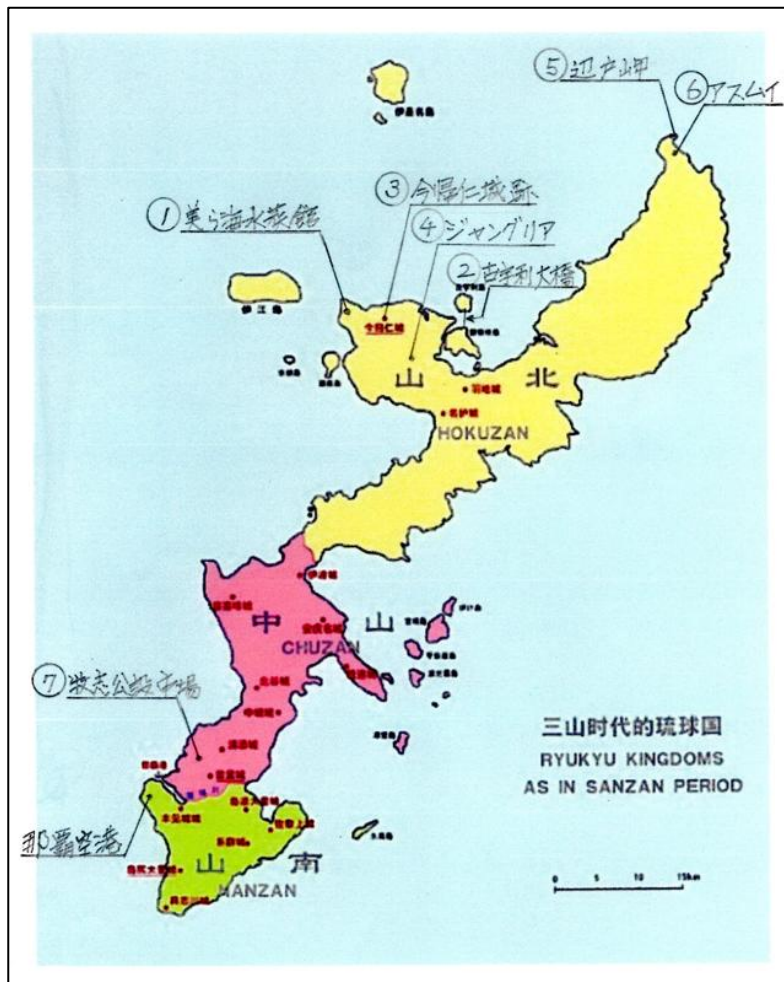
橋の左右に広がるエメラルドグリーンのを二分する海上の道、ドライブコースとして人気があることに納得しました。

海辺のホテルに18時頃到着。入浴後夕食をツマミに乾杯！！。メインディッシュはアグー豚。その美味しさにお酒がすすむこと。また明かりが灯ったガーデンも雰囲気満点。開放感に浸りもう一杯と・・・、就寝。

翌朝「③今帰仁城跡」へ。14世紀の琉球（沖縄）は、今帰仁城を含んだ北部地域を山北、首里城を含んだ中部地域を中山、島尻大里城を含んだ南部地域を山南がそれぞれ支配した「三山鼎立の時代」でしたが、15世紀初頭に中山の「尚氏」が山南・山北を滅ぼし琉球統一し、中山の表記に合わせ南山・北山と改められたとのこと。その後今帰仁城は北部地域管理のため監守の居城として利用したとのことでした。

今帰仁城跡は、琉球王国のグスク（城）及び関連遺産群として世界遺産にも登録されているほか、2006年には”日本100名城”にも選定されています。また桜の名所としても知られ、桜の咲く頃には桜祭りが開催されています。

【沖縄三山時代】



【今帰仁城跡】



【城跡内より城跡を望む】

今帰仁城跡観光後、今回目玉の「④ジャングリア」へ。駐車場は3～4割の車が…。予想以上の少なさでしたがその分沢山ショーが見れるし、アトラクションも体験できると早々に入場。



早速ダイナソーサファリへ。待ち時間は20分程。ヘルメットを被りシートベルトを締め装甲車でサバンナを進めば、かつて絶滅したはずの草食恐竜たちが触れるほど目の前に…。鬱蒼としたジャングルの悪路をガタガタ揺らし走ると、最強の肉食恐竜T-REX（ティラノサウルス）が突然襲いかかる！！。行く手を阻む熱帯植物をかき分け、水溜まりを跳ね上げ必死に逃げ回っても何度も何度も迫る獰猛なT-REX。装甲車に乗り込んだ瞬間から次々と起こる予測できない事態に…。といつまでも収まらない恐怖と興奮の連続に泣き出す子もいました。

興奮した後は2～3のショーを見て昼食。好みのメニューが無かったのが少々残念でした。

【ダイナソーサファリ】



【捕えられた T-REX】



次は「ジャングリア」で最も人気がある空中を飛行機のように飛ぶスカイフェニックス。待ち時間なんと1時間半。その待ち時間を利用し、これも人気の空中散歩のスカ



イエンドトレッキング。その名の通り空の上の吊橋を歩くと言うもの。踏み板間隔は大きく開き一歩足を進めるとグラリと揺れる。二歩目の踏み板は信じられないほど離れて感じる。その緊張感に心拍数が上がり足が震える始末。踏み外さないように慎重に…。到達点は見えているのになかなか近づかない長い吊り橋を汗がにじんだ手でロープを握りしめ、必死の思いで約10分。スカイフェニックス前のトレーニングとしては冷や汗ものでした。

いよいよスカイフェニックスの順番が来ました。持ち物は一切禁止、腕時計もダメ。ヘルメット・ハーネス（胴衣）などの装備で全身を固めたもののその装備が重いこと。これも安全のためか…。でも安心感も…。

これらを装着した状態で約100段（約20m）の塔を登って発射台へ。そこには係員の説明を聞いている十数人の待ちが並列で飛び出す前者を真剣に見ていました。次々飛び出し待つこと15分、我々の番が…。発射台に上がると心拍数が…。滑車をワイヤーに取り付け体を水平にすると不安は頂点に…。緊張していること数秒”発射！！”の合図が…。と共に飛び出し空中へ。



スカイフェニックス

数秒後にそうだ！！、飛行機だ！！、とばかり翼（腕）を広げ、顔に風圧を受けながら…。横の妻の様子は…。後方へ飛ぶ景色は…。と空中を楽しんでいる暇がないほどの速さで距離約280mの谷越え、その間約30秒でした。

不安は”発射！！”と同時に消え、その後は爽快感が勝り、空中を一直線に滑空

する感覚は普段味わえないスリルと解放感の両方を味わえたスカイフェニックスでした。

もう一度…と思いましたが待ち時間が…。残念ですが1回キリ。緊張と興奮のあとはコーヒブレイク。僅か30秒の飛行でしたが話題は豊富、30分程尽きぬ話をしていました。

なおスカイエンドトレッキングとスカイフェニックスは、一切の所持品不可のためカメラ撮影が出来なかったのが残念でした。

童心に返りショーやアトラクションで楽しんだジャングリアでしたが、その数は全体の2～3割。広い敷地の会場探しは苦勞もの。各所に案内人はいますが、地図で説明されても…。最後には目的地まで案内してくれました。

ゴルフ場跡地に造られた「ジャングリア」、我々のような高齢者は数えるほどでしたが、若者気分で遊んだ楽しい1日でした。

今日も海辺のホテルへ。夕食はキャンセルし教えてもらった居酒屋へ。ツマミは沖縄料理、お酒は勿論泡盛、それも古酒。話題は勿論ジャングリア。店主と話しているうちに他の客も加わり話題に花が咲き賑やかなアルコールタイムに…。帰路もタクシー。今宵は爆睡。

天気は晴れ。今日は沖縄本島最北端の「⑤辺戸岬」と「⑥アスムイ（安須森）」（旧：大石林山）へ。出発して海岸線を走ること2時間で「辺戸岬」到着。駐車場には数台の車が…。岬先端まで歩くこと数分。黒潮の荒々しい波が打ち付け、削られた断崖絶壁の先に見えるのが与論島。その距離約23km。沖縄が我が国に返還される1972年（昭和47年）5月15日まではここが国境。復帰前・後の幾多の石碑が…。観光地化したこの地に当時の人はどのような気持ちでここに立ったのだろうか…。なお妻は返還前に与論島に訪れたことがあり感慨深げに与論島を見ていました。



振り向けば壁のような四連の岩山「アスムイ（安須森）」が…。琉球開闢の創造神



【アスムイ、奥が神聖な山々】

アマミキヨ（阿摩美久）にまつわる神聖な7つのウタキ（御嶽）があり、アスムイはアマミキヨが島づくりの際に最初につくったウタキだと伝えられている沖縄本島最北の聖地です。

2億5千万年前の古生代に形成された石灰岩層が海底から隆起し、長い歳月をかけて浸食された四連の岩山。この四峰には各々名前があり地元の古老は祈りを

ささげるとか…。

なお「ウタキ（御嶽）」とは、神々や祖先の霊が宿るとされる聖域で、祈りや祭祀を行うための最も重要な信仰の場です。

自然の森や岩・洞窟などそのものがご神体とされ、現在も地域の人々が大切に守り続けている神聖な場所です。

その聖なる山にハイキングコースがあり神秘的な雰囲気の中1時間、観光客が少ないこともあって静けさが余計に神秘性を感じました。



アスムイの森

【アスムイの展望所より辺戸岬を望む】



これより 3 時間かけ今日の宿泊地那覇へ。レンタカー返却後ホテルに荷物を置き、今宵の目的地「⑦牧志公設市場」へ。散策していると奥の海産物店が並ぶ一角が目にとまり覗いてみると珍しい魚介が沢山。どうやって食べるのか聞くと調理した物を 2 階のフードコートで食べるとのこと。2 階に行くと賑わっていましたが落ち着かないのでパス。経営者・従業員は中国系のようでした。

市場内には複数の並行した通りがありキョロキョロ物色していると、沖縄民謡が流れる店前で足が止まりこの店へ。着席後早速乾杯！！。肴は勿論地の物、飲み物は泡盛の古酒。のどを潤しお腹も落ち着いたところで、今回の旅行の感想を話していると、意外にも「今帰仁城跡」と北端の「辺戸岬」「アスムイ」の評判が上々。本命の「ジャングリア」と同等というのに驚きました。沖縄の歴史をかじりあらためて興味を持ったのか…。「ジャングリア」も楽しかったものの待ち時間の対処方法や会場探しの時間が…。いずれにしても行く先々の評判が良かったことは予想以上でした。

今宵は最後の夜。旅行の仕上げとばかりツマミの山が…、お酒もすすむこと。今宵も爆睡。

翌日モノレールで空港へ。レストランで食事を済ませ、那覇 12:15 発に搭乗、成田 14:55 着。自宅 16 時半着、無事の帰宅となりました。

妻の一言から始まった沖縄旅行。互いに数回来ていますが首里城がある本島中・南部が主で、北部にはそれ程興味が無かったもののテーマパーク「ジャングリア」が出来たことにより、少々足を伸ばした北端への旅でしたが結果は上々。ジャングリアも楽しめましたが、違った意味で「今帰仁城跡」と「辺戸岬」「アスムイ」など北部の聖地が記憶に残る旅となったことは何よりでした。